

天伯小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「学び合いの中で輝く天伯っ子の育成」を学校理念として、ESDを学び方、教え方の変革と捉え、ESDの実践を通して、自分であるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した問題解決的な力の育成を目標とした。
- ・具体的には、①郷土に関わる学習、②環境に関わる学習、③米作り・食育に関わる学習、④防災・安全に関わる学習を行った。

① 郷土に関わる学習（3年生）

3年生では、天伯校区で栽培が盛んなスイカを育てた。甘くて大きなスイカを育てるには、植え付けから収穫までの間、どのように世話をしたらよいか調べ、大切に育てることができた。わからないことは本やタブレットで調べ、校区のスイカ農家の方に指導をしていただき、学習に取り組んだ。7月には立派なすいかを収穫し、3年生全員で取れたてを食べることができ、郷土のよさを実感することができた。



② 環境に関わる学習（4年生）

4年生は総合の学習で、地球温暖化を知り、その影響で、いろいろな問題が起き始め、さまざまな影響が出ていることを知った。このままではいけないという危機意識をもち、地球温暖化の原因やメカニズム、地球温暖化が及ぼす悪影響などについて各自がインターネットで調べ、自分が調べたことを新聞にまとめて掲示した。また、身の回りの環境を知るために「天伯湿原」の見学に行き、湿原を守っている校区の方から話を聞き、環境を守る大切さを知った。



③ 米づくり・食育に関わる学習（5年生）

天伯小の米作りは、PTAの協力のもと40年以上行われている。子どもたちは、モグラやジャンボタニシ、スズメの被害から自分たちの米を守るために、調べ学習や話し合いを通して、自分たちができるところを行った。田植え、稲刈り、しめ縄づくりなどを体験することで、自然の恵み、勤労や食物の大切さなどの意識を高め、地域の人たちの関わりや開拓の歴史についても触れることができた。



④ 防災・安全に関わる学習（6年生）

6年生の子どもたちは、自分たちの住んでいる校区や地域のことを考えた。ふだん何気なく過ごしているが、交通量が多かったり、道路の舗装の具合が悪く水たまりができたり、ガードレールがなくて側溝に落ちそうだったり、道路にはいろいろな危険な所があることに気づいた。それらの情報を、自分たちで作った地図にまとめ、学年で交流をした。その後、掲示をし、全学年に発信することができた。

